

吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生れたか頓（とん）と見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間で一番癡悪（どうあく）な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕（つかま）えて煮て食うという話である。